

反貧困セーフティネットアルプスと無料こどもじゅく

ネットワーク団体の相談活動

- ・労働相談—地区労連
- ・生活相談—生健会
- ・健康生活相談—協立病院
- ・法律相談—弁護士

反貧困セーフティネット ・アルプスの活動

定例なんでも相談会
毎月のきずな昼食会
夏冬のきずな村

・無料こどもじゅく

スタッフは、元・現教師や塾講師
元児童福祉司、大学生など

・学習支援

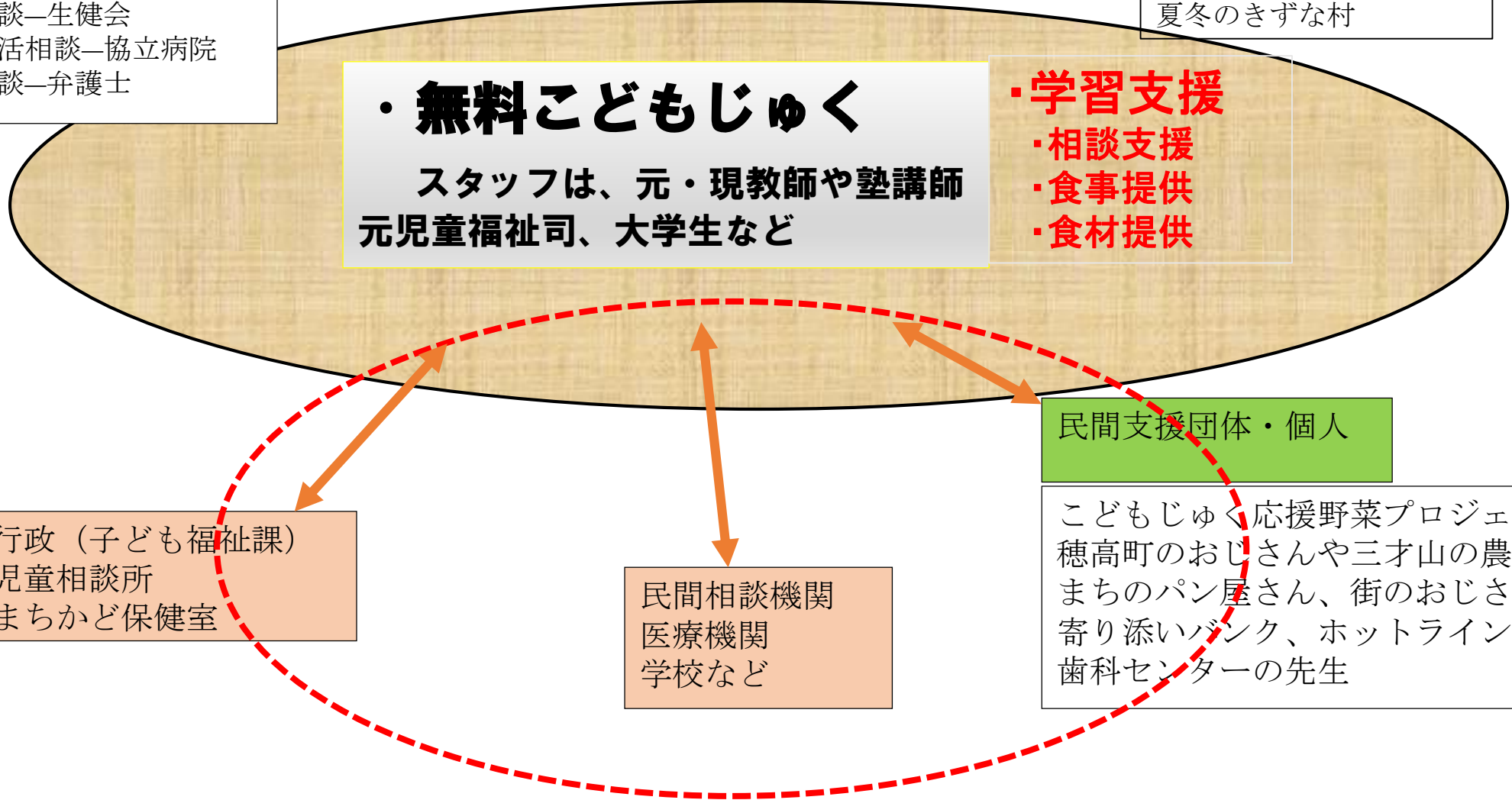
- ・相談支援
- ・食事提供
- ・食材提供

民間支援団体・個人

こどもじゅく応援野菜プロジェクト
穂高町のおじさんや三才山の農家の方
まちのパン屋さん、街のおじさん
寄り添いバンク、ホットライン信州
歯科センターの先生

行政（子ども福祉課）
児童相談所
まちかど保健室

民間相談機関
医療機関
学校など

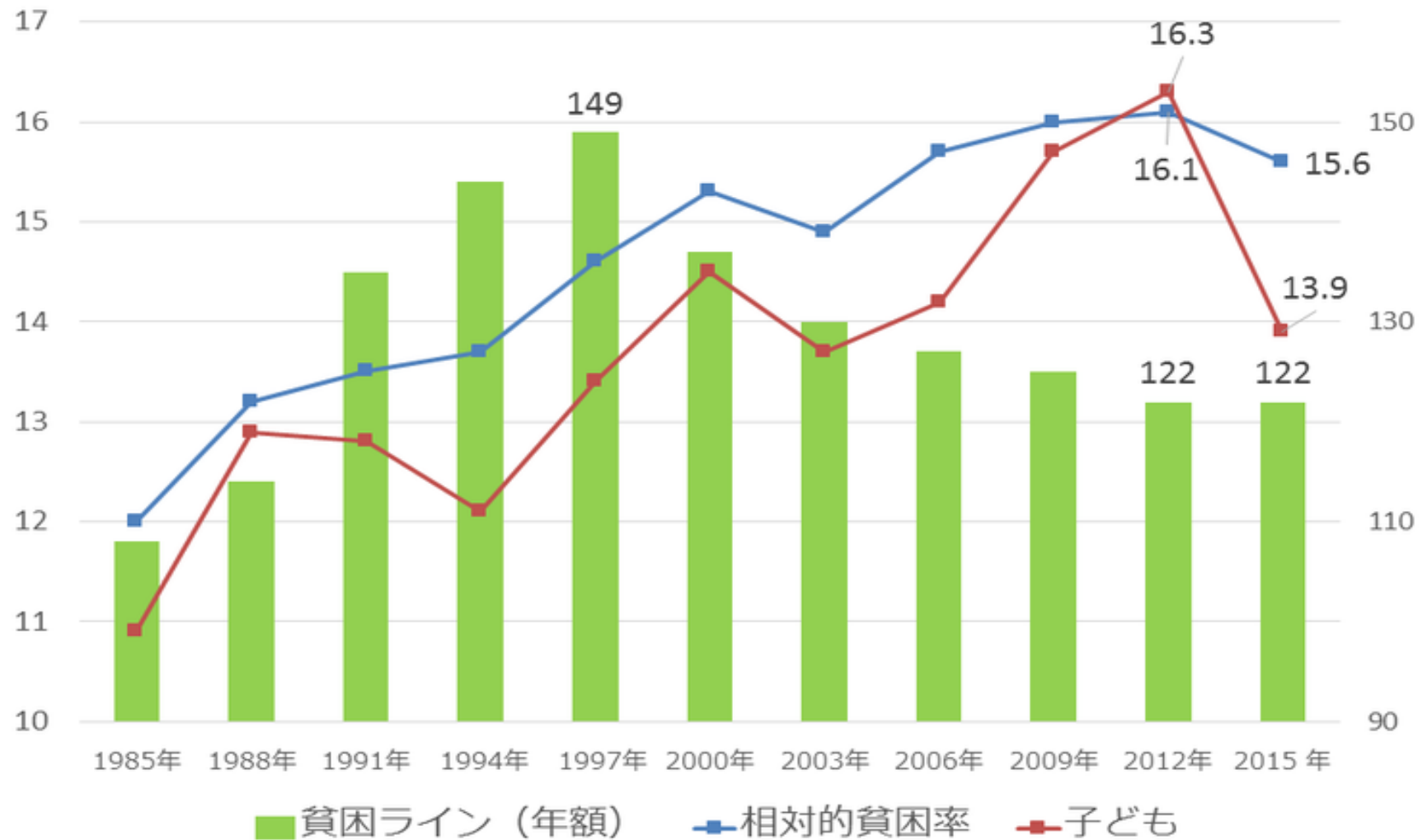


無料こどもじゅくの7年間

	開設当初(7年前)	現在(今年度)
開設回数	年24回、土曜日の午後	年51回計画 今年度は受験生特別講座17回
スタッフ	社会人スタッフを中心に学生スタッフは2~3名	社会人スタッフに加え、大学との連携により中高生はほぼマンツウマンの支援
会場	公民館を転々	協立病院、Mウイングに定着
食糧支援等		野菜、お米その他を日常的に支援できている 月1回の夕食提供もボラスタッフで
相談支援	限られた子どもへの支援	家族からの相談、子どもからのメッセージが届き支援につながる

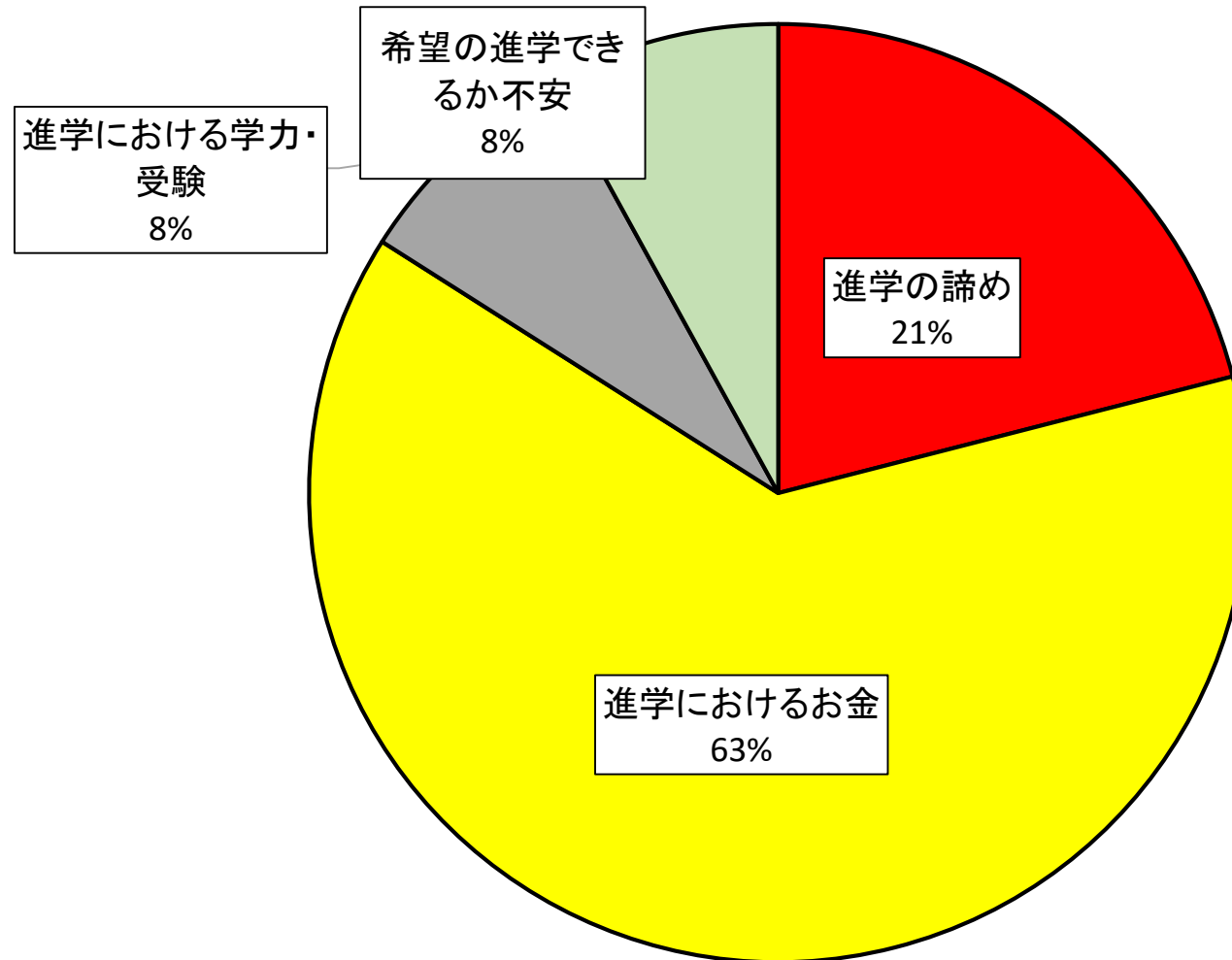
子どもの貧困率

貧困率と貧困ラインの推移



高校1・2年の進学悩みは(%)

県ひとり親家庭調査子どもの声アンケートから



学習塾・通信教育の利用(%)

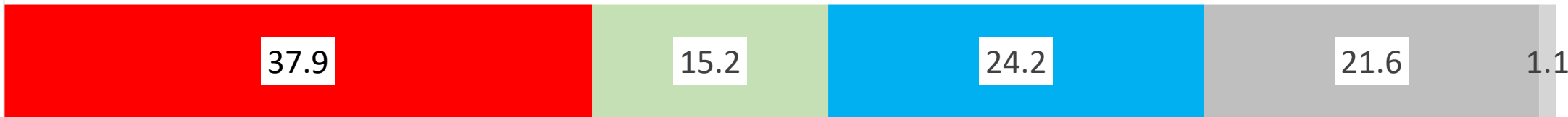
(県子どもと子育て家庭の生活実態調査から)

- している
- していない(家族の方針ではない)
- していない(経済的にできない)
- していない(その他の理由で)
- 無回答

一般家庭



周辺家庭



困窮家庭



【こどもじゅくのA君】

親の生活困難のもとで、

子どもが生きる道を探る

家族の
病気
ひとり
親家庭

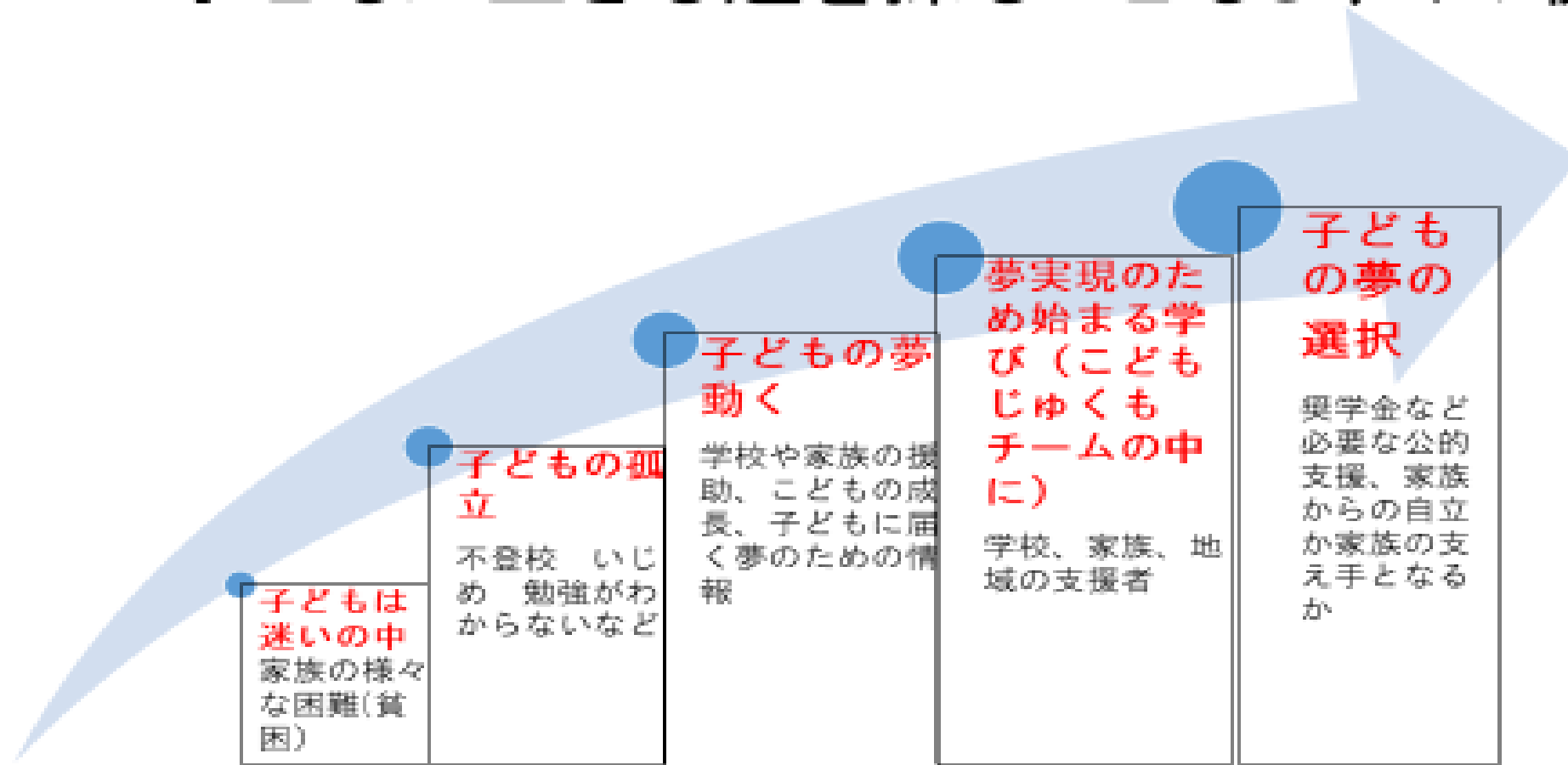
生活保護
家族の社会的孤立
不登校

子どもの夢
動く
夢を支える
学校 家族
こどもじゅく

夢実現のため支える
チーム
学校、医療
福祉、地域の支援者
こどもじゅく

子どもの夢
の選択
家族からの
自立or家族の
支え手となる

親の生活困難のもとで、 子どもが生きる道を探るこどもじゅくの役割



こどもじゅくの役割

子どもの貧困

子どもの成長発達にもたらされる不利を解決する

どの子にも保障される教育、医療
など 子どもに求められる**普遍性**
を持った基盤

病気、障害、家族の機能マヒなど
個別性を持った社会保障、福祉
施策

こどもじゅくの役割

- ・子どもの貧困解決のための下支え
- ・子どもの個別の困難にも寄り添う
- ・子どもの生きる力が発揮できるように応援する

子どもの学習支援をとおして考える

親世代の格差が子ども世代に跳ね返らないために、みんなで子育てに関わり、費用調達も含めて社会全体の問題なのだとしないと家族責任が強化されてしまいます。「子どもにかかるお金は世の中全体で負担しようではないか」と考えるべきなのです。

そうすることによって、親世代の格差が子ども世代に跳ね返るような仕組みを緩和していくことができます。

「ここまで進んだ格差と貧困」松本伊知
郎編著より